



平安だより 2022年2月号 平安幼稚園

「良い物をくださる神様」 牧師・園長 江間紗綾香

『求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。』 (マタイによる福音書七章七〜八節)

お祈りの準備をする子供たちを見ると、「すてきな」と思うことがしばしばあります。その姿は、旧約聖書に登場するサムエルの祈り(下図参照)そのものようです。子供たちはいったい、どのようなことを祈っているのでしょうか。幼稚園では毎朝、各お部屋で礼拝を守っています。そして年中さん、年長さんは当番の子供たちが自分の言葉でお祈りをささげています。日々、子供たちは先生やお友達の祈りの言葉に耳を傾け、クラスの様子をよく観察することで、祈りの姿勢や祈るべきことを覚えていきます。大人でも人前で祈るのは緊張してしまうと言う方が多いですから、すごいなあと思います。改めて、心を込めて続けることが大事であると気づかされます。

二月の聖句に「求めなさい」とあります。これは「祈りなさい」ということです。しかも、ただ祈るのではなく「祈り続けなさい」という意味を含みます。つまり、神様に祈り続け、神様の教えを探し続け、神様のもとで歩む門をたたき続けなさいとイエス様が教えている言葉になるのです。それらを通して、神様は私たちの祈りを聞き届けてくださり、神様の子として歩むことを可能にしてくださるのです。

この聖句の続きには、『あなたがたのだけれが、パンを欲しい自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しいが、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者である。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。』とあります。自分が子供時代だった時、願った物かどうかは別にしても、多くの方が良いものとして親から限らない愛を注いでもらった記憶はあるでしょうし、現在は我が子に限らない愛を注いでいるでしょう。それと同じように神様は私たちに限らない愛を注いでくださっているということです。ただ、自分の願った通りに与えられるか分かりません。しかし、神様は私たち一人一人にふさわしい良い物を、ふさわしいタイミングで必ず与えてくださる方です。その時には願ったものが与えられず、がっかりするかもしれません。しかし、今まで歩んできた道を振り返る時、「あの時に与えられたものによって、今の自分がある」と確かに思うことができるでしょう。なぜなら、神様は求める者に良い物をくださると聖書に書いてあるからです。

願った通りにならない、思い通りにならないことは、子供たちにとっては時に辛く、悲しいことかもしれません。そのような時には、「それが人生だ。仕方がない」という諦めではなく、子供たちの気持ちを受け入れつつ「次は大丈夫だよ」と前向きな言葉をかけていきたいと思うのです。何より、「祈り続けること」「やり続けること」

で神様が必ず聞いてくださっていることを信じて欲しいと願っています。

そのことをさまざま保育の場面で伝えていくことを忘れず、私たち大人も続けることを大切にしていきたいものです。

